

42

879

十團子宇都谷峠

下之矣



上より一進出せし多時船ハ字様各

岸へ入る由を文持より舟の

う人知事あり一と云ふ事

かびらるく又り舟は

ぬがふふらるる事

ハ其れ由不夜

あると珠に

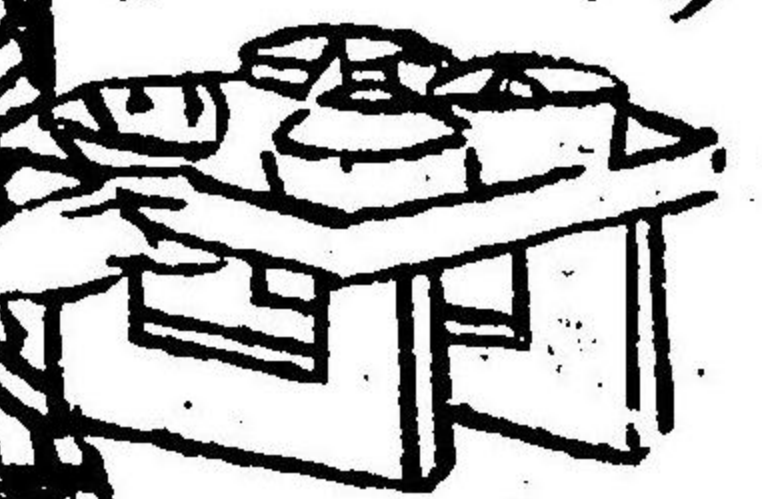
こしと長船

まぐんえん遠り

おのれとあかあか

文持西ひう

まひまひまひ



● 西より渡り

を各々びり

管下移り

子にたを

聖船

船

と

と

の

の

の



二一ト



つぎ 主人小形をきき

藤入よりしる程

かくお別腹と

笑されたる意

文跡と物とも

雨物相食

しんま

はし後書

心

ま

重兵工

口大

ふた

二才

ふり

さうおあそと

おま

はりのかた

うー枝

つーおあのを

とあおあそと

しんま



不のうらぬ程

お心

ま

山の場

えんたる由老をきき

孫と四角山の

志んたるのり

えんたるのり

次郎まねん

おまねん

をきき

おまねん

おまねん

おまねん

おまねん

おまねん

おまねん

おまねん

おまねん

おまねん

おまねん

おまねん

おまねん

おまねん



〆〆〆 孫の世にんくはひりまをまひり用
 〆〆〆 〆〆〆のむかひがお達はしる故室
 〆〆〆 〆〆〆が月久も入るぬれぬれ
 〆〆〆 〆〆〆の今大金を
重兵工
 〆〆〆 〆〆〆の世にんぬるぬる
 〆〆〆 〆〆〆の世にんぬるぬる
 〆〆〆 〆〆〆の世にんぬるぬる
 〆〆〆 〆〆〆の世にんぬるぬる
 〆〆〆 〆〆〆の世にんぬるぬる
 〆〆〆 〆〆〆の世にんぬるぬる

〆〆〆 〆〆〆
 〆〆〆 〆〆〆
 〆〆〆 〆〆〆
 〆〆〆 〆〆〆
 〆〆〆 〆〆〆
 〆〆〆 〆〆〆
 〆〆〆 〆〆〆
 〆〆〆 〆〆〆



文跡



重兵衛
肉のつとみられ
とつとみられ
お初る夜に
て路地を備へ

ひたひた
お初る夜
お初る夜
お初る夜
お初る夜
お初る夜



文弥
許の頂上
道々
さうお
お初る夜
お初る夜

お初る夜
お初る夜
お初る夜
お初る夜
お初る夜
お初る夜



箱にふくまはるゝおのゝこ
 籠もりのけりさるゝおのゝこ
 の内よりのさるゝおのゝこ

おのゝこ

おのゝこ
 とおのゝこ
 中へ
 足元
 ちのち



おのゝこ
 六の
 六の
 六の

重兵工

おのゝこ
 小一通の文
 のおのゝこ

つぎは人なり

笑と伴せり

何處とも

ありませ

さりる

○形?

て保弁

なき

去

来

た

た

文弥亡矣

あつたにやうな

ひやくのの

及ぼと

のぞむ

はなを

ひとられて

の敷物を

文弥といふ

金返

金返

金返

急のせ
おののけ
柴井町一五
彼令るゆて
危急と一
きか抱き
病ひふ臥
常れんを
医老よ某と
ふ女抱る

重兵工

おののけ



おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ

おののけ



一ノ巻

六

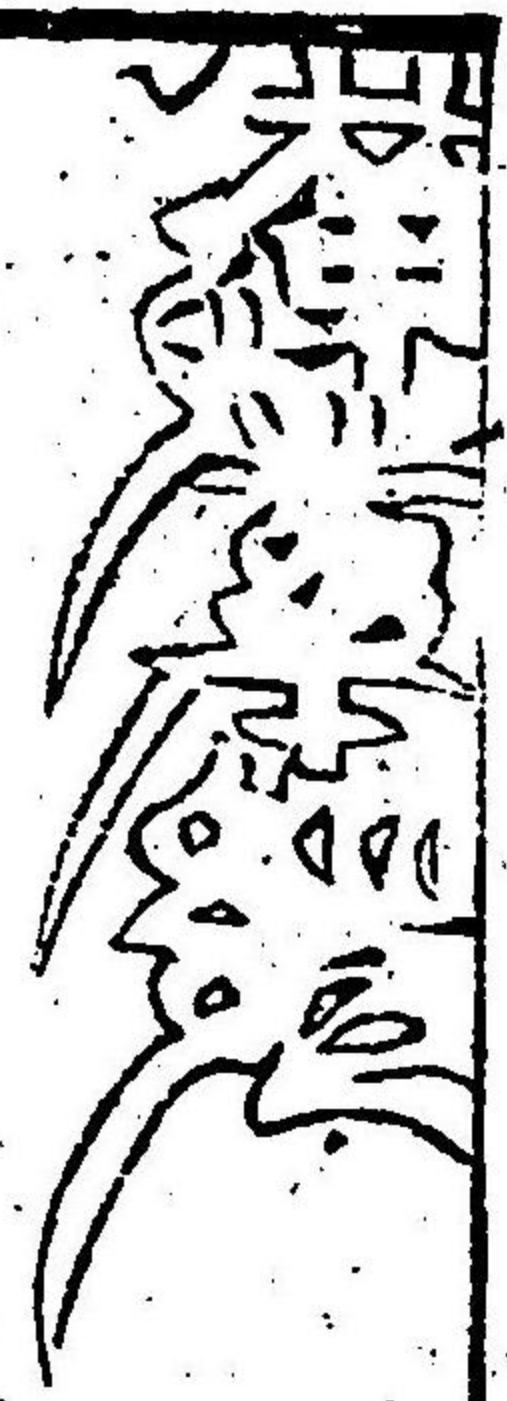
此は
 一ノ巻
 重兵衛
 の
 顔
 也
 其
 の
 口
 は
 血
 の
 味
 也
 其
 の
 目
 は
 鬼
 の
 目
 也
 其
 の
 鼻
 は
 龍
 の
 鼻
 也
 其
 の
 鬚
 は
 虎
 の
 鬚
 也
 其
 の
 髪
 は
 蛇
 の
 髪
 也
 其
 の
 體
 は
 龍
 の
 體
 也
 其
 の
 力
 は
 鬼
 の
 力
 也
 其
 の
 心
 は
 蛇
 の
 心
 也
 其
 の
 性
 は
 虎
 の
 性
 也
 其
 の
 行
 は
 龍
 の
 行
 也
 其
 の
 名
 は
 重
 兵
 衛
 也



指移と色音入
 重兵衛
 此天の命りせ松の
 兄と一人かど言ひある事心違の
 由べ死せし所の妻の身許
 をと入控もまが頼る事
 罵りつらめ、小方とま集り
 世ののち苦とらひる由だ
 妻と一家へ押替へ人せを
 さけつて着病ま
 女房

此は
 重兵衛
 の
 妻
 の
 身
 許
 也
 其
 の
 名
 は
 女
 房
 也
 其
 の
 性
 は
 蛇
 の
 性
 也
 其
 の
 行
 は
 龍
 の
 行
 也
 其
 の
 名
 は
 女
 房
 也

下ノ巻



提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

おまへはさきかきさきかき

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三



提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき



提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき

提婆の二二三

おまへはさきかきさきかき



仁とせまじし

て夜も静と

終ぐ敷まを

引廻しをん

高く頼

てうえを

波うちしは

し敷と物移を満

さんふと報を

ありとりのお

とほしるを

重兵工

彦三

○若

若のゆきん

とあきあ二人

くくく

くくく

くくく

くくく



まひけりたる浦へ

こきりたるさな

表津渡で抱き

換ふせけり

男を

人の美

ひ

彦三

くくく

くくく

くくく

くくく

おきん

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

くくく

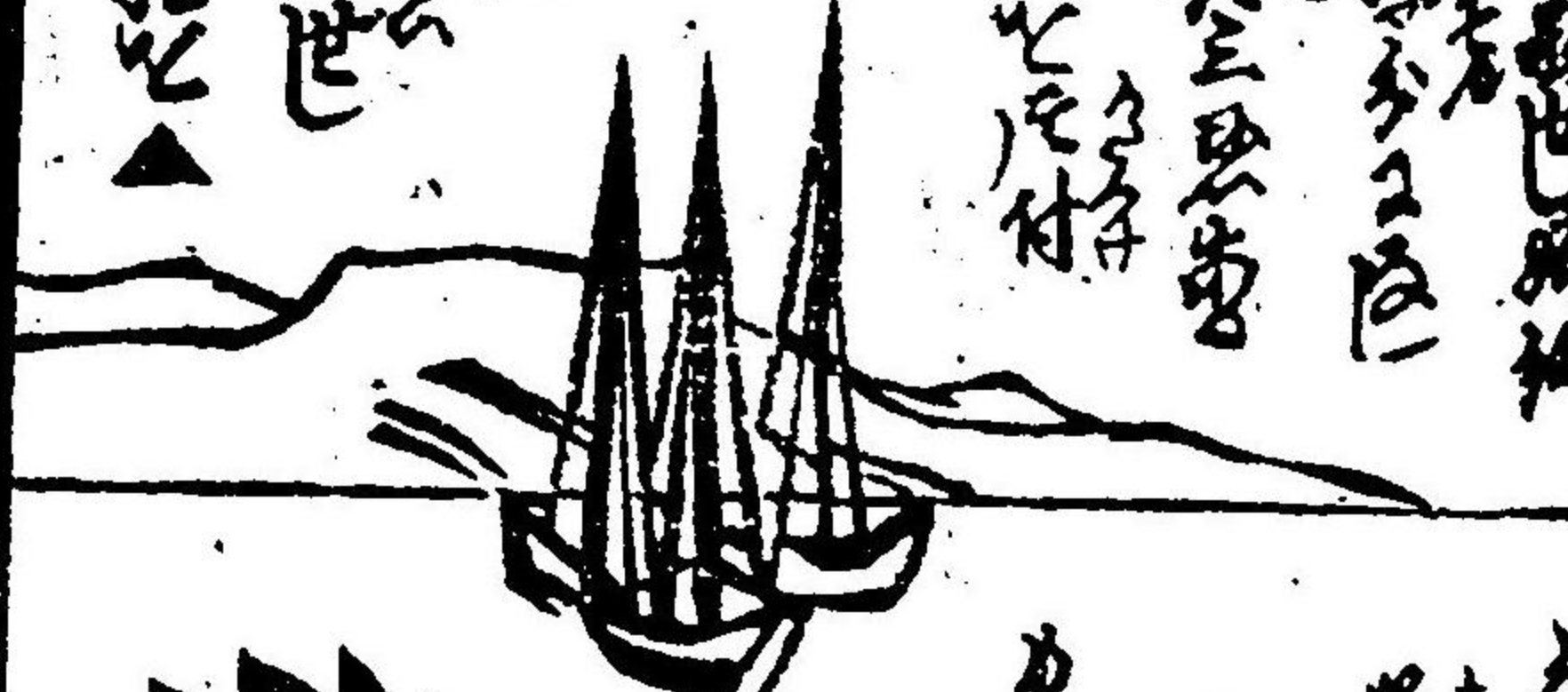
くくく

くくく

くくく

くくく

夕夕の 夢を去らばしつて而もあのみまゝに犯し
 紋さぬ故交と云ふはしつて二人のあへにを
 殺せし刀由は秘と執事小娘へ交ま
 せしく二人と押しつた文條と殺せし秘
 と格り小まゝに小舟の秘をかくしは
 ぬれと云ひし息の秘はるるまゝと交ま
 せし交小まゝと秘し死つては付
 被金あつてあつた(小まゝとま
 娘と交まゝと又秘小まゝのま
 めへはまゝとままゝとまゝのまゝ後へ
 妻の秘をまゝのまゝのまゝ今快世
 へ人別後しつてまゝ人のまゝ花と▲



柳 届
 明治十四年 七月十日
 日本橋區本町二番地
 編輯者 大西庄之助
 出版人 大西庄之助

被中まゝ
 まゝの家
 まゝえまゝと
 せん
 せん

價三圓五厘

明治十四年七月十日 御届

編輯者 東京日本橋區本町二番地
 出版人 大西庄之助

